

米軍川上弾薬庫周辺住民の
安心・安全のための取組の推進
についての要請書

令和 8 年 2 月

広島県 東広島市

令和8年2月 25 日

中国四国防衛局長 様

東 広 島 市 長

米軍川上弾薬庫周辺住民の安心・安全のための取組の推進について（要請）

令和5年12月以降、瀬野川水系の米軍川上弾薬庫（東広島市八本松町宗吉）周辺の河川及び飲用中の地下水において、有機フッ素化合物の一種であるPFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）及びPFOA（ペルフルオロオクタン酸）（以下「PFOS等」という。）が指針値（50ng/L以下）を超えて高濃度で検出され、本市は、市民の安心・安全な生活を担保するため、地下水濃度が指針値を超過した地点の世帯等を対象に上水道への接続支援を実施するとともに、県とも連携しつつ、河川・地下水等のモニタリングにより、水質の監視を継続して実施しています。

また、公衆衛生に関する専門知識を有する学識経験者等による「東広島市有機フッ素化合物健康影響評価検討委員会」を設置し、高濃度の PFOS 等が検出された地域の住民の健康への影響の把握、評価及び健康不安への対策について検討し、その提言に基づき、当該地域の住民に対し、継続的な健康診断の受診促進と健診結果の把握、健康管理の助言、健康不安に対する相談などを行ってきました。

これらの PFOS 等汚染が発覚して2年が経過した現在、全国的に PFOS 等による水質汚濁や健康影響への関心が高まっており、本市におきましても、当該地域住民の健康への不安が一層高まっていることから、一部の住民が自費で PFOS 等の血中濃度検査を受け、2000ng/mL を超える極めて高い値が検出されたことが確認されております。

つきましては、住民の安心・安全な暮らしを守るためには、一日も早い原因究明とその対策の実施、健康や生活に対する不安の解消が必要であることから、国において、速やかに、次の項目について適切な措置を講じられるよう強く要請します。

【要請事項】

- 川上弾薬庫に関して、泡消火薬剤の保有及び使用の履歴（時期・場所・量・漏出の有無等）についての詳細な調査と公表、水質・土壌調査の実施（特にヘリパッド周辺）と数値の公表、原因が弾薬庫内にあると考えられる場合の対応方針の公表など、必要な対応の実施及びその公表を米軍へ働き掛けること。
- これまでの河川や地下水のモニタリング調査実施において PFOS 等の濃度に減少傾向がみられていない事や、このたび川上弾薬庫周辺にお住まいの住民の血液から高濃度の PFOS 等が検出されたことを踏まえ、川上弾薬庫から流出する水に含まれる PFOS 等を除去する対策を講じること。

参考資料

1 当該地域住民の自費による有機フッ素化合物血中濃度検査の結果について

採取日：2025 年 6 月～9 月

分析日：2025 年 7 月～10 月

採取場所：東京都内医療機関

分析施設：一般財団法人東京保健会

検査項目	分析値 (単位：ng/mL)		
	80 代女性	50 代女性	20 代男性
PFOS	346.7	473.7	36.0
PFOA	38.9	19.8	5.5
PFHxS	907.4	340.1	125.5
PFNA	5.4	3.9	1.4
PFDA	0.2	0.4	0.3
PFUnA	1.0	0.9	1.5
N-MeFOSAA	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
検査項目	合計値		
Total 4 PFAS (PFOS+PFOA+PFHxS+PFNA)	1298.4	837.5	168.4
Total 7 PFAS (PFOS+PFOA+PFHxS+PFNA+ PFDA+PFUnA+N-MeFOSAA)	1299.6	838.8	170.2

※ 自費で検査した当該地域住民から提供を受けた「有機フッ素化合物 P F A S 分析報告書」を基に作成

※ その他にも自費で血中濃度測定を行った住民が十数名おり、2000ng/mL を超える値が検出された方も数名出ている状況。

2 東広島市で行った当該地域住民の健康影響分析について

東広島市有機フッ素化合物健康影響評価検討委員会報告書（2025（令和7）年3月）より抜粋

3 健康影響への評価

（1）健康影響の分析

環境省が設置した「PFAS に対する総合戦略検討専門家会議」において取りまとめられた「PFAS に関する今後の対応の方向性」の中で「PFOS 等による健康影響への不安の声が上っている地域においては、地域保健を担当する各自治体が、地域保健活動の一環として、健康指標に関する既存統計を用いるなどして当該地域の健康状態を把握し、地域住民に向けた情報発信をすることが望ましい」とされている。

東広島市においては、有機フッ素化合物の健康影響調査についての分析を、広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学に依頼することとした。

① 分析方法

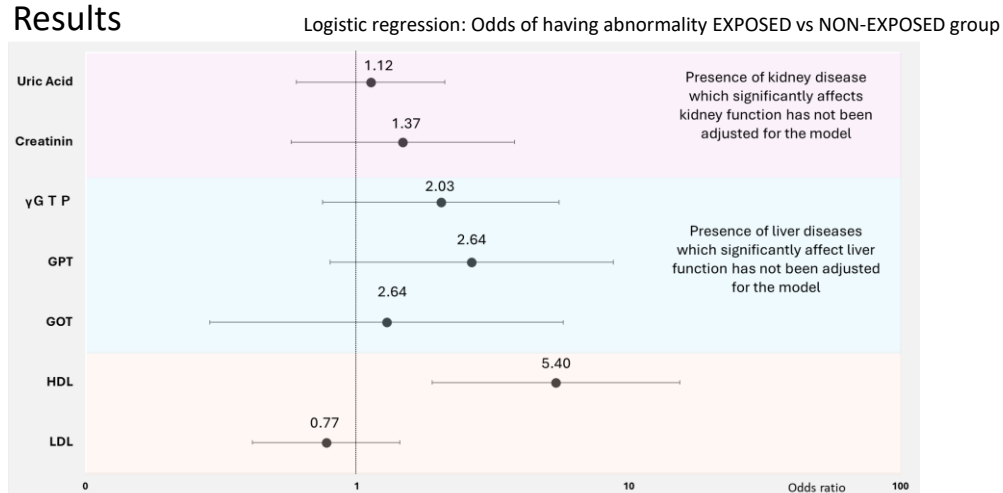
- 基本健康診査については、臨時健康診断結果と令和5年度元気すこやか健診（以下「住民健診」という。）の内、八本松地域以外の健診結果を比較する分析を行った。
- がん検診については、令和5年度住民健診におけるがん検診結果を用いて、八本松地域と八本松地域以外の地域を比較する分析を行った。
- 解析では、想定される交絡因子によるマッチングを行い、多変量解析を実施した。

② 分析結果

ア 基本健康診査

- 住民健診群と比較して、臨時健康診断群では、HDL コレステロール値の低値割合が優位に高かった。

Results



分析結果の解釈に係る留意点として、まず、ばく露の有無は居住地域に基づいて定義しており個人別のばく露量は評価できていない。またサンプル数が少ないため数例追加されただけでもリスク計算結果が変化し、推定結果は統計学的に不安定である。そのため観察された影響がPFASによる影響か否かは結論しにくく、偶然このような結果になった可能

性が排除できない。PFAS による健康影響の評価について医学的に頑健なエビデンスを得るためには、全国的な調査を行い、サンプル数を確保する必要があると考えられた。

イ がん検診

- ・ 臨時健康診断のがん検診において、がんと診断された人はいなかった。
- ・ 令和5年度住民健診におけるがん検診結果データには診断結果が含まれていないため、がんリスクの評価は困難だった。
- ・ がん検診結果について、八本松地域と八本松地域以外の要医療リスク（悪性腫瘍以外も含まれる）は、性・年齢による調整を行うと有意な差はなかった。

ばく露（+）：八本松地域、ばく露（-）：八本松地域以外

肺がん	曝露－	曝露＋	Total	p
A	2 0.0%	0.0%	2	
B	9878 80.5%	2105 82.1%	11983	
C	1902 15.5%	369 14.4%	2271	
D	345 2.8%	63 2.5%	408	
E	145 1.2%	26 1.0%	171	
	12272 100.0%	2563 100.0%	14835 0.355	

胃がん	曝露－	曝露＋	Total	p
異常を認めず	2871 32.8%	574 32.2%	3445	
経過観察	5076 58.0%	1063 59.6%	6139	
精密検査を要する	740 8.4%	123 6.9%	863	
要医療	72 0.8%	23 1.3%	95	
	8759 100.0%	1783 100.0%	10542 0.032	

多変量解析(性別年齢調整)	95% CI		p
要医療	1.50	0.94 2.41	0.092

子宮頸がん	曝露－	曝露＋	Total	p
精検不要	5927 98.0%	1055 97.4%	6982	
要精検(1)	20 0.3%	4 0.4%	24	
要精検(2)	13 0.2%	5 0.5%	18	
要精検(ASC-US)	89 1.5%	19 1.8%	108	
	6049 100.0%	1083 100.0%	7132 0.428	

乳がん	曝露－	曝露＋	Total	p
カテゴリー1	2597 61.6%	458 62.7%	3055	
カテゴリー2	1456 34.5%	231 31.6%	1687	
カテゴリー3	150 3.6%	37 5.1%	187	
カテゴリー4	11 0.3%	3 0.4%	14	
カテゴリー5	1 0.0%	1 0.1%	2	
	4215 100.0%	730 100.0%	4945 0.096	

大腸がん	曝露－	曝露＋	Total	p
異常を認めず	11186 93.5%	2259 92.5%	13445	
経過観察	36 0.3%	10 0.4%	46	
精密検査を要する	748 6.2%	173 7.1%	921	
	11970 100.0%	2442 100.0%	14412 0.206	

前立腺がん	曝露－	曝露＋	Total	p
異常を認めず	2231 62.3%	436 58.5%	2667	
経過観察	1111 31.0%	251 33.7%	1362	
精密検査を要する	240 6.7%	58 7.8%	298	
	3582 100.0%	745 100.0%	4327 0.144	

*肺がん

A：読影不能
B：異常所見を認めない
C：異常所見を認めるが精査を必要としない
D：異常所見を認め、肺がん以外の疾患が考えられる
E：肺がんの疑い

*子宮頸がん

要精検(1)：ASC-H・LSIL・HSIL・AGC・AIS
要精検(2)：Adenocarcinoma・SCC・Other

*乳がん

カテゴリーⅠ：異常なし
カテゴリーⅡ：良性
カテゴリーⅢ：良性、しかし悪性を否定できない
カテゴリーⅣ：悪性の疑い
カテゴリーⅤ：悪性